

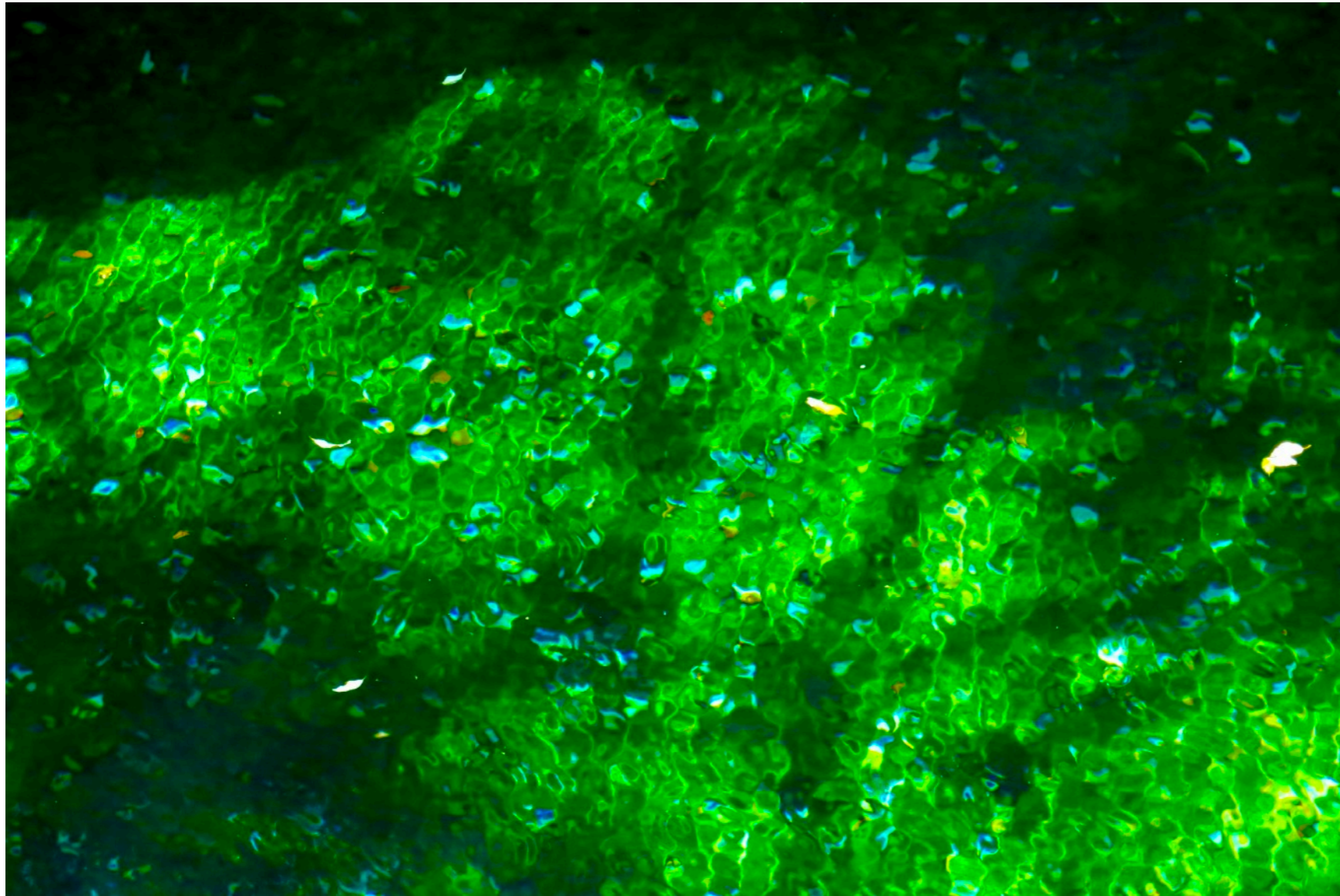
神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
114

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 228集】 photo ヴァージョン

photopos 2826-2850

《2022.6.4～ 2022.6.28》

神秘学遊戯団



与えたものが
与えられる

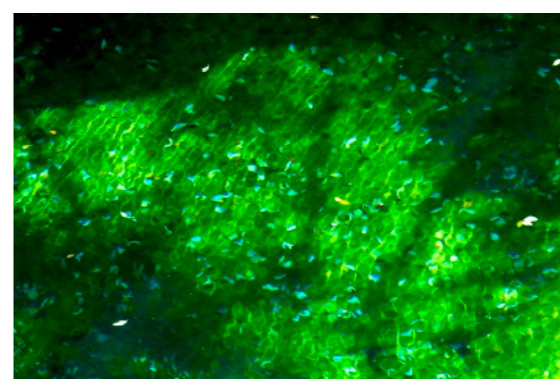
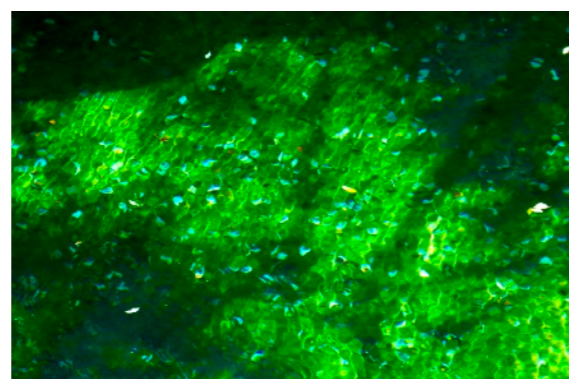
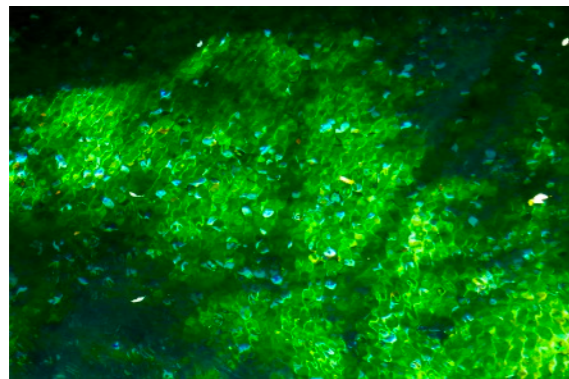
それは
目には目を
歯には歯を
の世界でもある

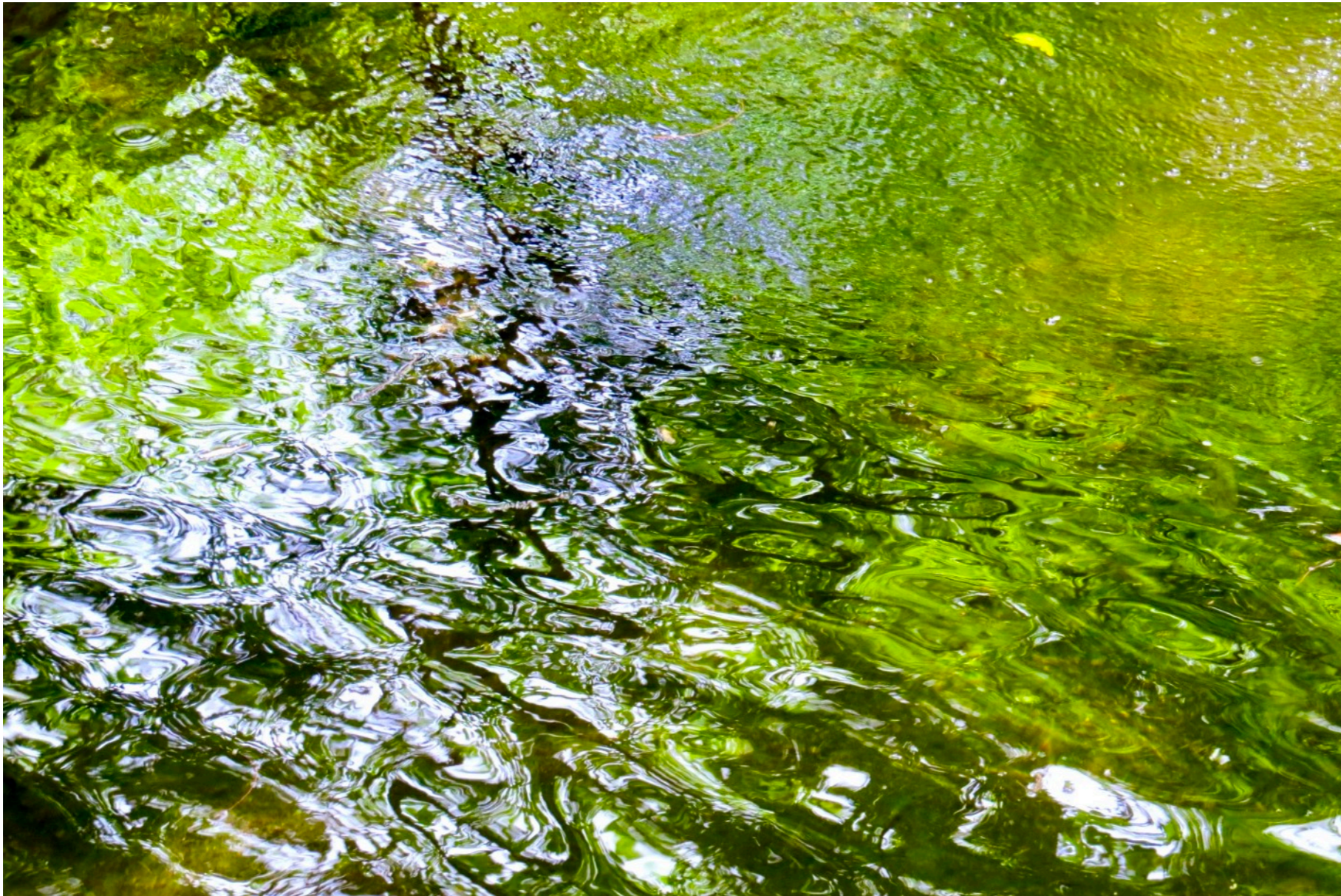
そこに
律法はあるが
そこから
愛は生まれない

与える者が
与えられる者よりも
上に立つとき
そこに
愛はない

与えることと
与えられること
そのあいだにある壁が
矛盾にもかかわらず
存在しなくなる時

そこに
はじめて
愛は生まれる





まだ
見たことのないものを
見たいから

まだ
知らないことを
知りたいから

まだ
考えたことのないことを
考えたいから

まだ
わからないでいることを
わかりたいから

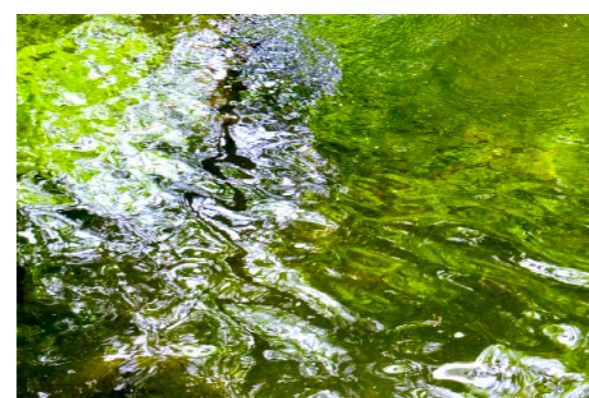
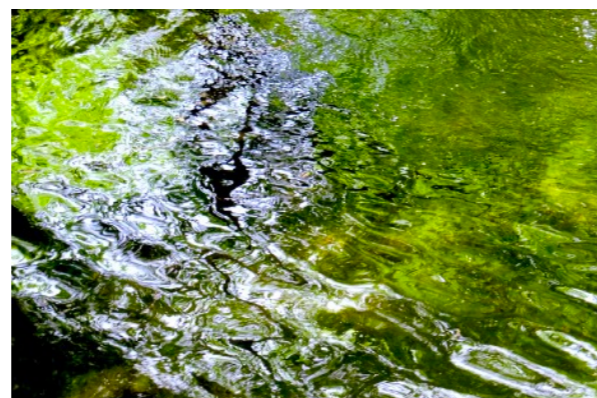
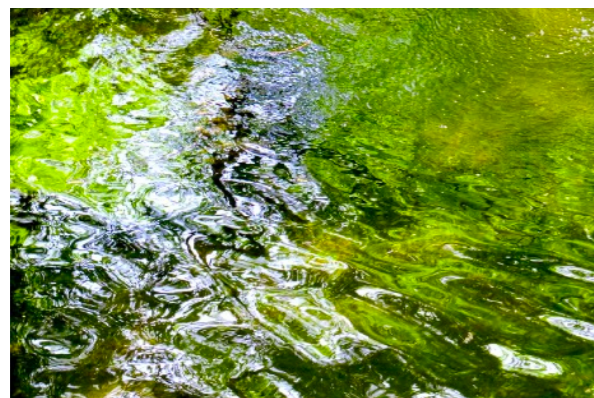
まだ
感じたことのないことを
感じたいから

まだ
想像できないでいることを
想像したいから

この不思議だらけの世界に
生まれてきた

この不可解だらけのわたしとして
生まれてきた

未知は満ち満ちて
いつまでも尽きることはない





どうでもよさそうで
どうでもよくないものがあり
どうでもよくなさそうで
どうでもいいものがあり
どうでもよさそうで
ほんとうにどうでもいいものがある

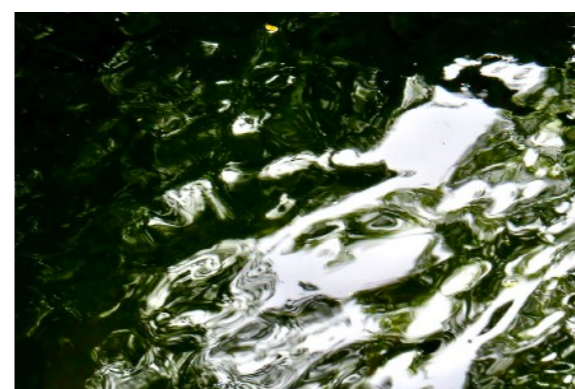
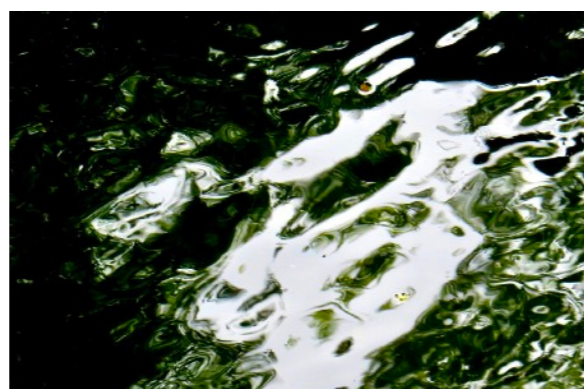
どうでもいいものに
まどわされないでいられますように

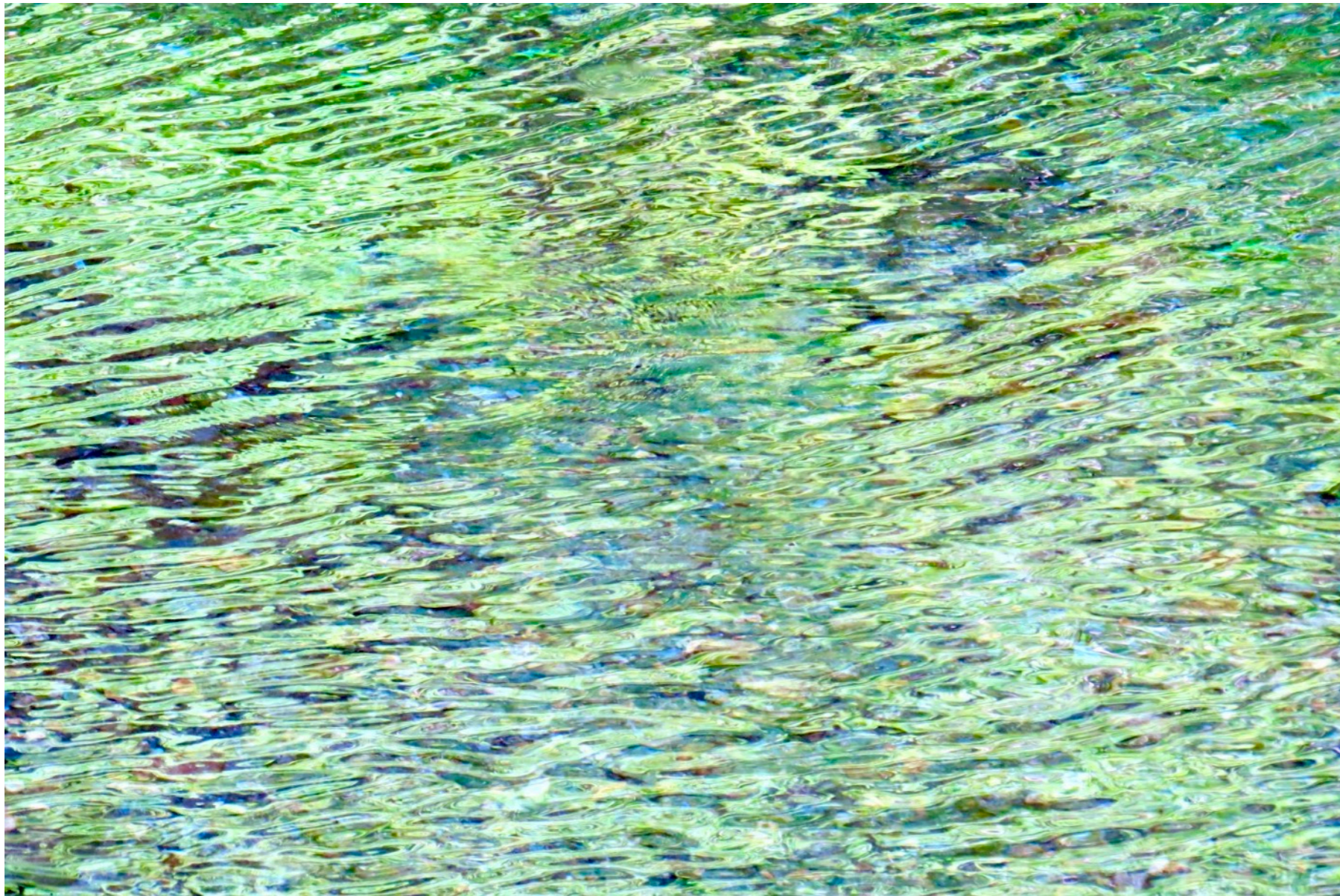
つまらなそうで
つまらなくないことがあり
つまらなくなさそうで
つまらないことがあり
つまらなさそうで
ほんとうにつまらないことがある

つまらないことに
つかまらないでいられますように

いいかげんそうで
いいかげんでないひとがいて
いいかげんでなさそうで
いいかげんなひとがいて
いいかげんそうで
ほんとうにいいかげんなひとがいる

いいかげんなひとに
ふりまわされないでいられますように





おなじ世界のはずなのに
目でみる世界は
体でふれる世界とどこかが違う

おなじ世界のはずなのに
目でみる世界は
耳できく世界とどこかが違う

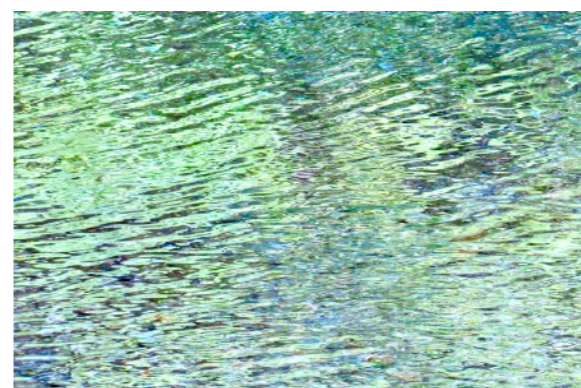
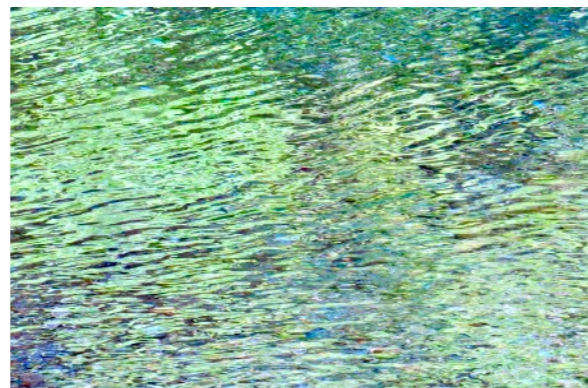
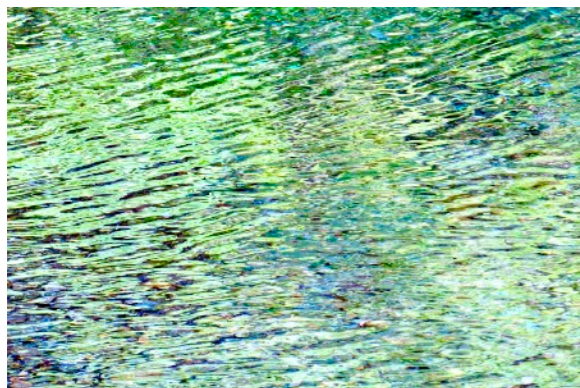
おなじ世界のはずなのに
目でみる世界は
鼻で嗅ぐ世界とどこかが違う

おなじ世界のはずなのに
目でみる世界は
舌で味わう世界とどこかが違う

おなじ世界のはずなのに
目でみる世界は
こころで感じる世界とどこかが違う

おなじ世界のはずなのに
わたしの世界は
あなたの世界とどこかが違う

けれど違うから
違いを認めあい理解しあう
そのぶんだけ世界は広がってゆく





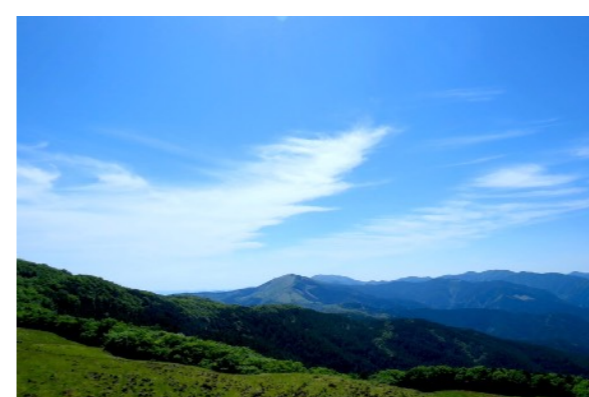
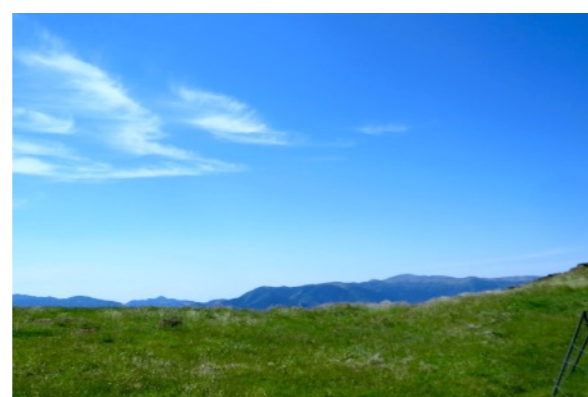
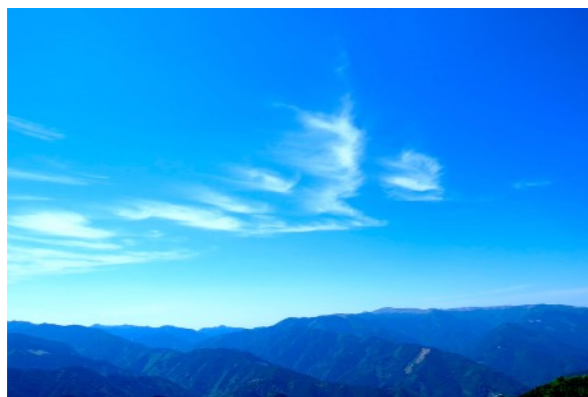
浮かんでいるのか
流されているのか
飛んでいるのか

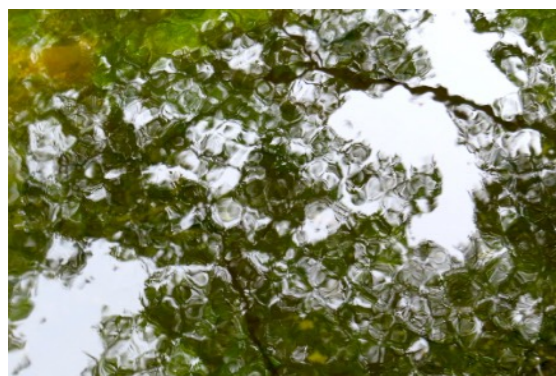
ともあれ
ひととき
姿を現したと思ったら
やがてすべては
消えてゆく

空に溶けたか
地に降ったか
それとも
精霊になったか

かたちあるもの
かたちなきもの
それらすべての源にある
不思議のもの

われもまた
不思議のものゆえ
やがてすべては
消えてゆき
またどこかで
姿を現しもする





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

思いは
かたち
なるうとする

けれど
それは
思ったままの
かたちには
ならないまま

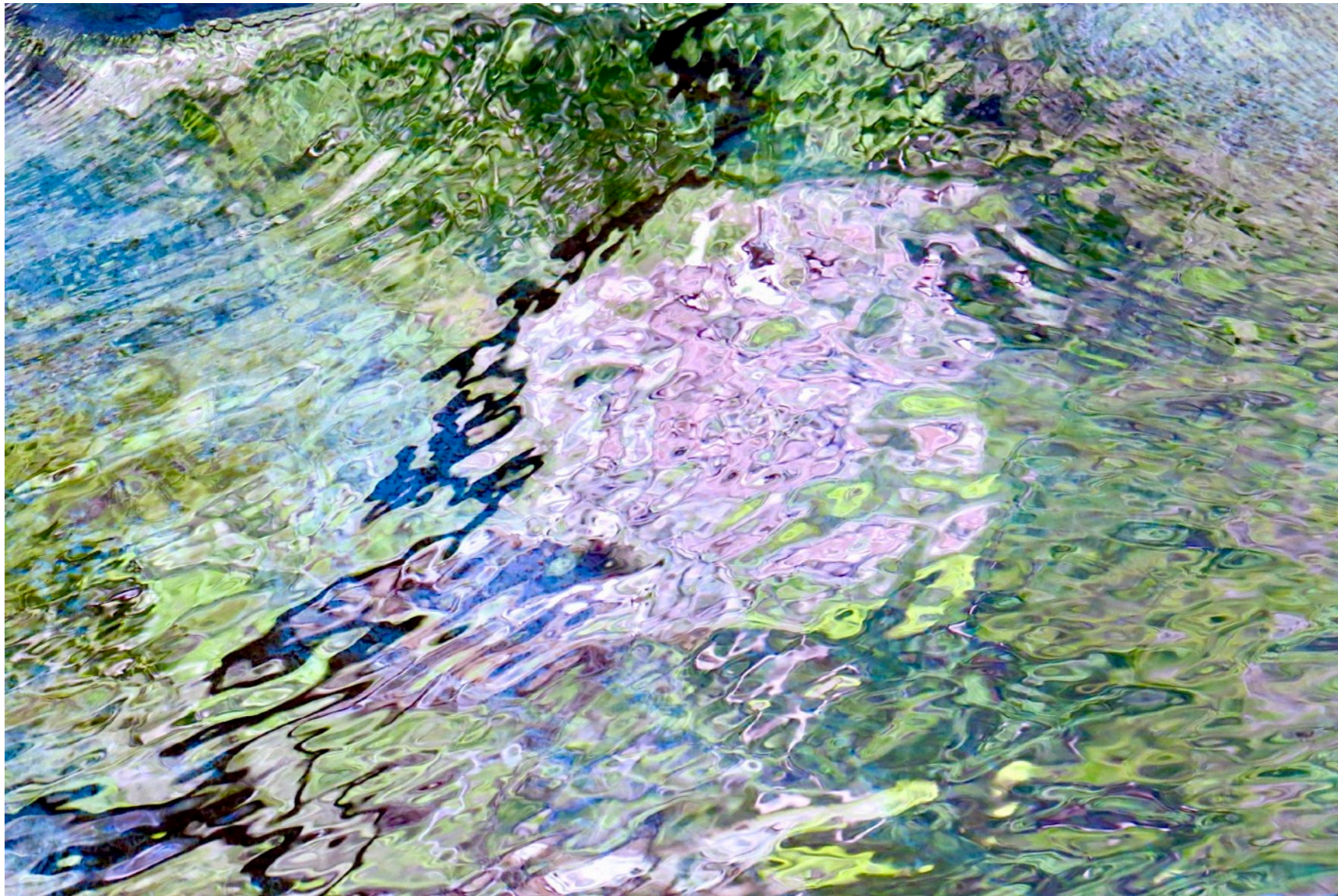
べつの
かたちにかわり
それもまた
べつの
かたちにかわり

やがて
はじめの思いとは
まったくちがった
かたちになってしまうように

わたしもまた
わたしがなるうとした
はじめのかたちとは
まったくちがった
かたちになっている

それはいったい
何を意味しているのか
そんなことを思いながら

その思いもまた
べつのかたちに
かわっていかうとしているようだ



今を去ることはできない

できるのは
時を待つこと
時が熟すのを待つこと

ここを去ることはできない

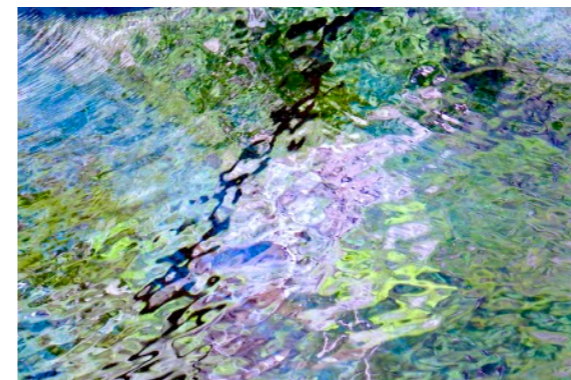
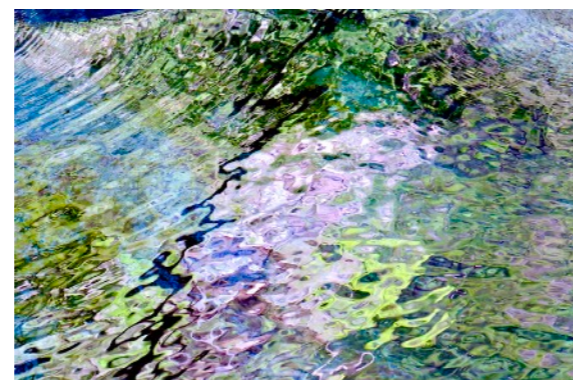
できるのは
ここにいること
ここが熟すのを待つこと

私を去ることはできない

できるのは
私であること
私が熟すのを待つこと

生を去ることはできない

できるのは
生きぬくこと
生が熟すのを待つこと





生きる意味は
変わりやすい

意味を持続させるには
与えられた意味から
自由にならねばならない

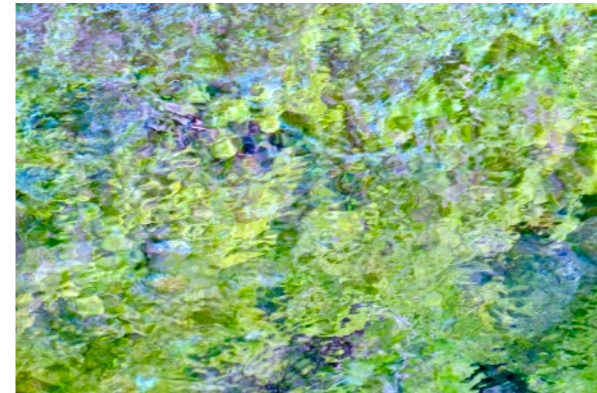
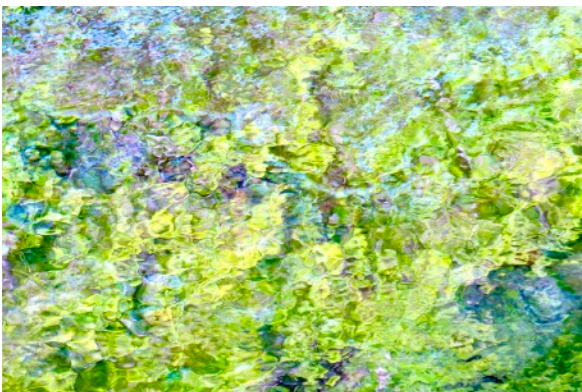
生きる意味を
見失いそうなときは
その意味が
どこからきたものか
たどってみることだ

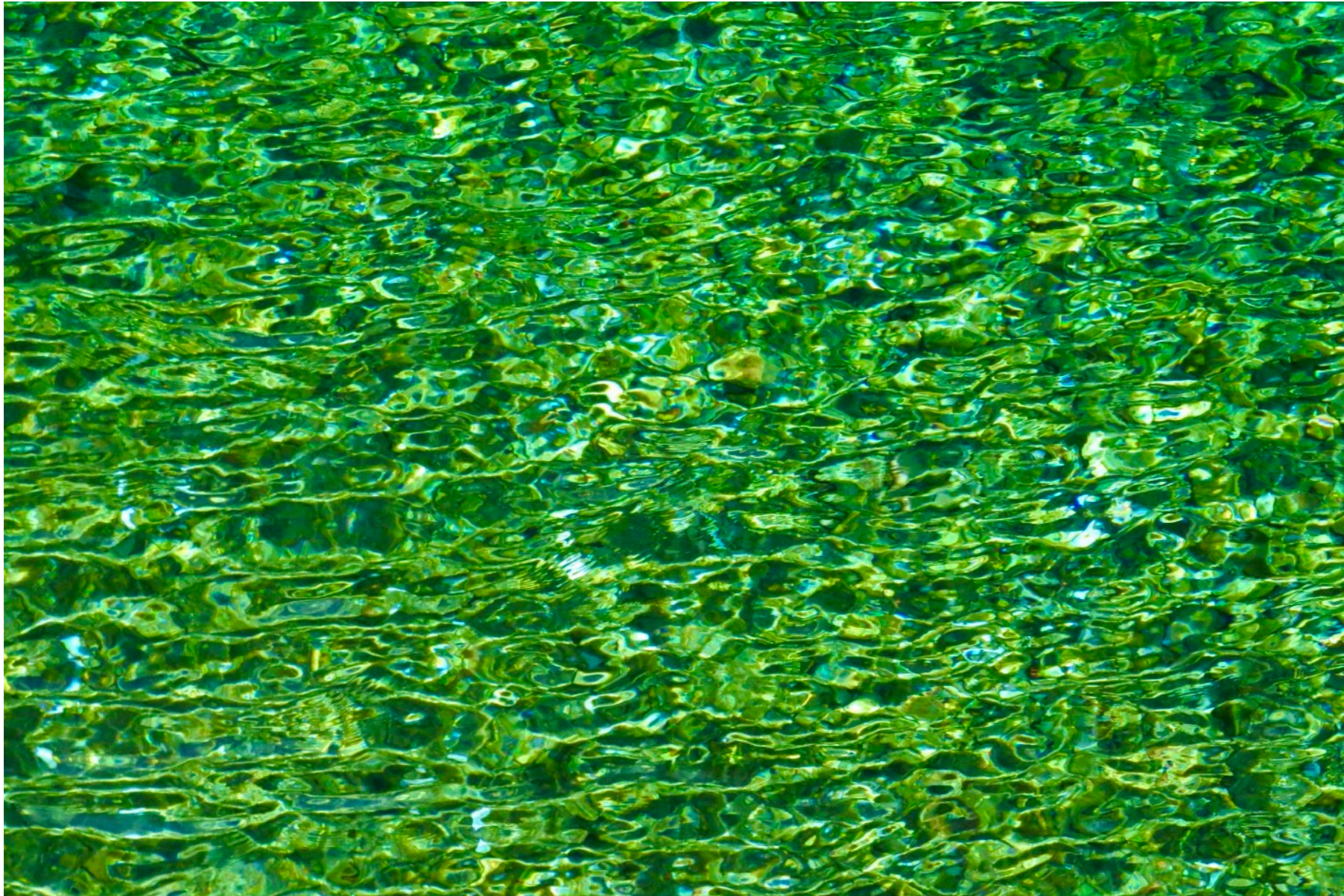
与えられた意味は
わたしの意味ではない

わたしの意味でなければ
失われて悲しむ必要はないだろう

意味はみずからつくるもの
それはだれのものでもない
わたしの意味である

わたしは
わたしの意味を
生きているのだから





ここから
そこを見る

そこから
ここを見る

ふたつの世界は
同じだろうか

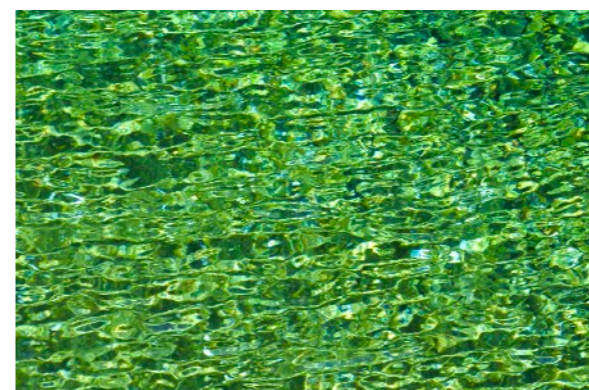
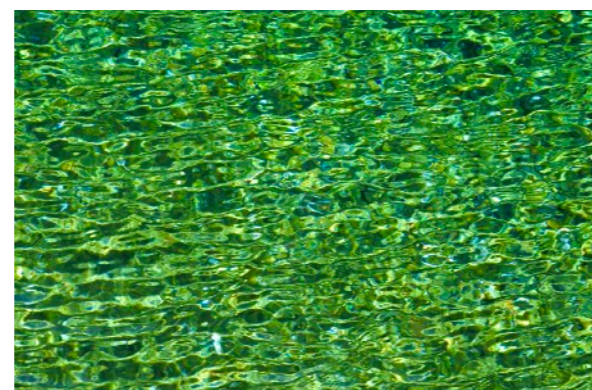
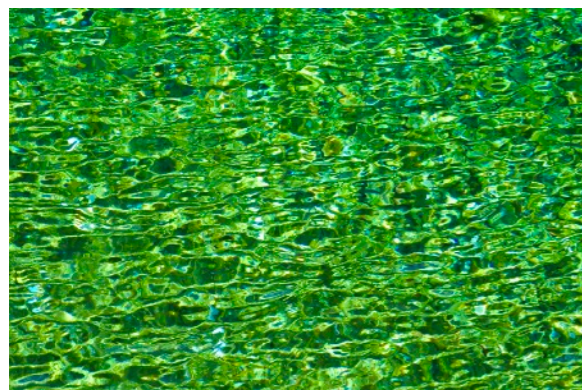
すべての場所が中心となる時
世界とはいったいなんだろう
だれがその無限の世界を見るのだろうか

わたしが
それを見る

あなたが
それを見る

ふたつの世界は
同じだろうか

すべてのわたしが中心となる時
わたしとはいったいだれだろう
わたしがわたしを照らす無限のわたし



※愛媛県久万高原町・面河溪にて



かたちには
意味があるように
ことばにも
意味がある

かたちが
どのように
生み出されたのか

そのことを知ること
あらたなかたちと
その意味を
生み出すことができるように

意味が
どのように
生み出されたのか

そのことを知ること
あらたなことばと
その意味を
生み出すことができる

かたちが
意味を失うとき
ほかのかたちに
ならねばならないように

ことばが
意味を失うとき
ほかのことばに
ならねばならない



※愛媛県愛南町（宇和海）にて



こころが
閉じてゆく

そのとき
せかいもまた
閉じてゆく

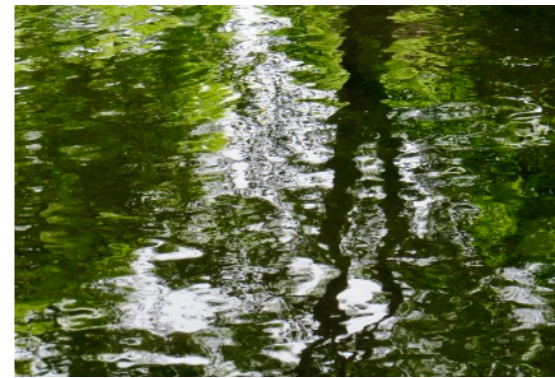
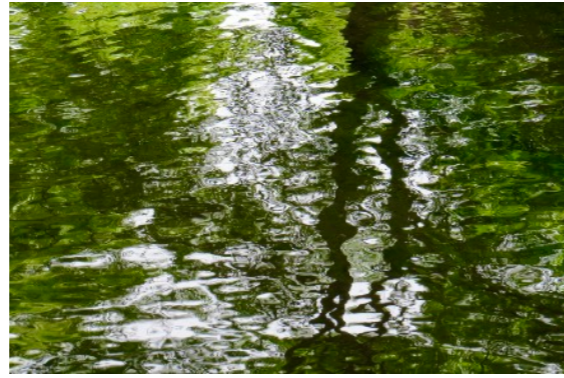
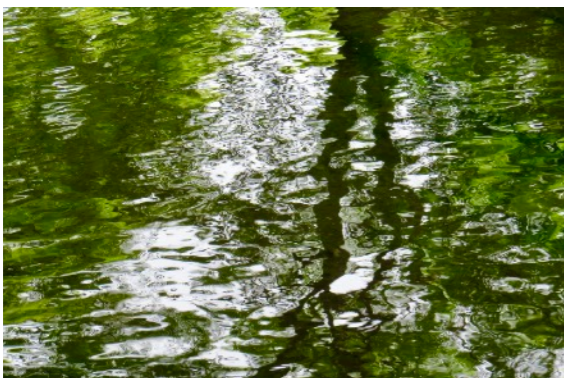
けれど
閉じたなかでしか
ひらかれない
とびらがある

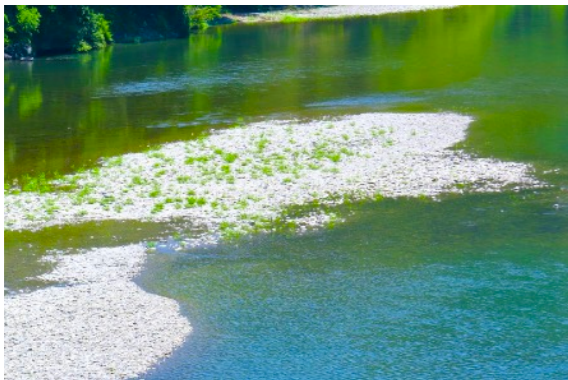
こころを鎮め
せかいを鎮め
とびらをひらく

そこに
こころと
せかいが
映される鏡がある

そこに
知られないでいた
秘密の泉がある

その水を飲み
こころをひらき
せかいをひらき
よみがえりを生きる





夢の如く
現の如く
私は変わり
世界は変わる

変わらぬものは
なにもない
変わらないのは
変わるということだけ

それでも
この私はこの私で
私のいる世界はこの世界
私はこの世界を生きている

そして
やがて私は
私でない私となり
私の世界もまた
そのときの私の世界である
私でない私も
その世界を生きている

生まれ生まれて
私は変わり
世界は変わり
死に死に死んで
私は変わり
私の世界は変わる

夢の如く
現の如く
私は変容のままに
自由を旅している



光あれ！
すると
光があったように

名づける
すると
名づけられたものは
名になる

けれど
名になったものは
名以外のものには
なれなくなる

ほんとうの名を知られると
名によって操られるように
名になったものは
名に縛られてしまう

名がなければ
何者でもないが
名になると
名でしかなくなるのだ

名は
名を超えて
ゆかねばならない

名で縛るのは
みずからを
名とする心である

名でありながら
名を離れた心へ
名であってこそ
名から自由な心へ



☆photopos-2839

2022.6.17



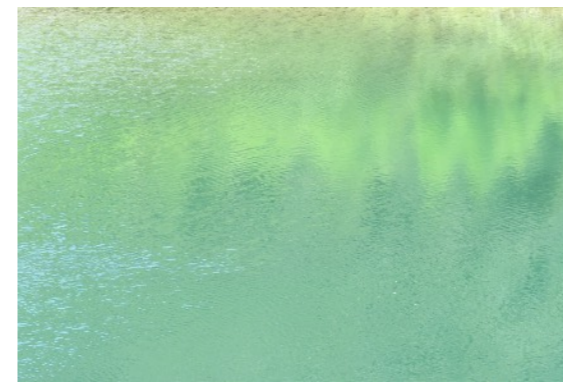
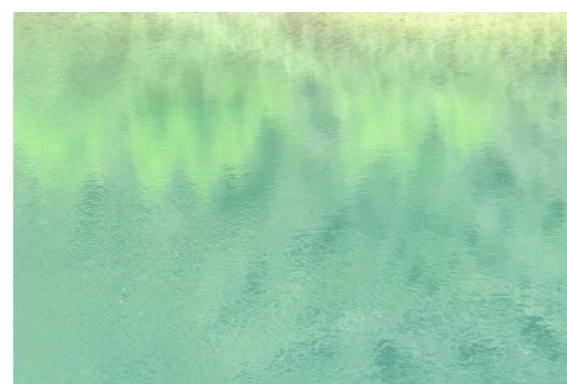
せかいを
うつす
かがみと
わたしを
うつす
かがみと

かがみと
かがみは
うつしあい
せかいと
わたしは
うつしあい

せかいと
わたしの
あいだに
ゆめは
うまれ
うつつは
うまれ

ゆめは
うつつになり
うつつは
ゆめになり

せかいは
わたしになり
わたしは
せかいになり



※高知県・四万十川にて

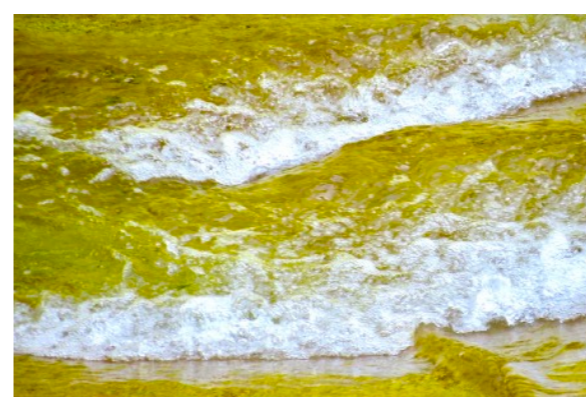


わたしには
わたしの理由があり
あなたには
あなたの理由がある

わたしの理由は
あなたの理由にはならないけれど
あなたの理由は
わたしの理由にはならないけれど

わたしが
あなたの理由に寄りそい
あなたが
わたしの理由に寄りそえれば

世界は
わたしの理由と
あなたの理由で
少しだけ大きくなる
少しだけ豊かになれる





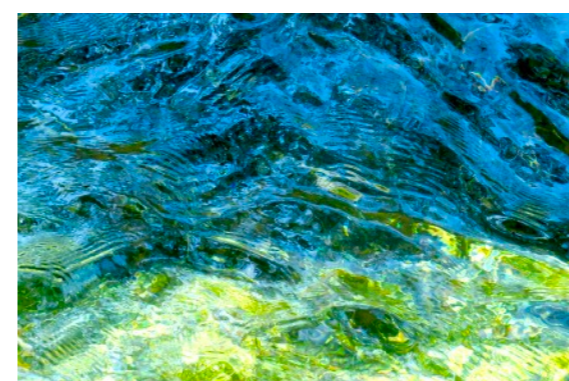
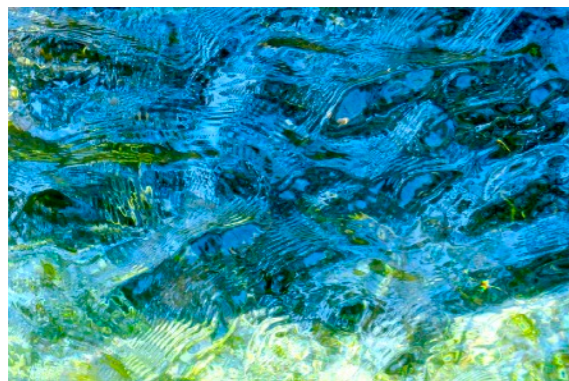
見えているのに
見えないもの

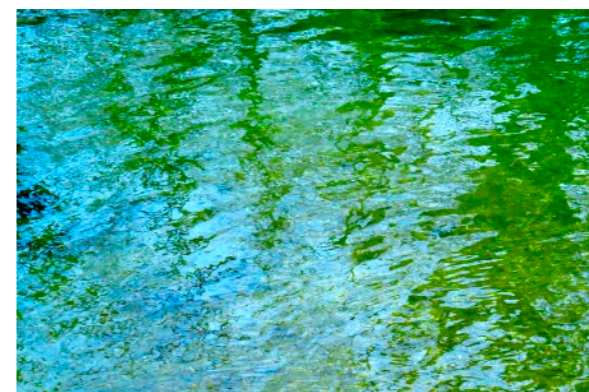
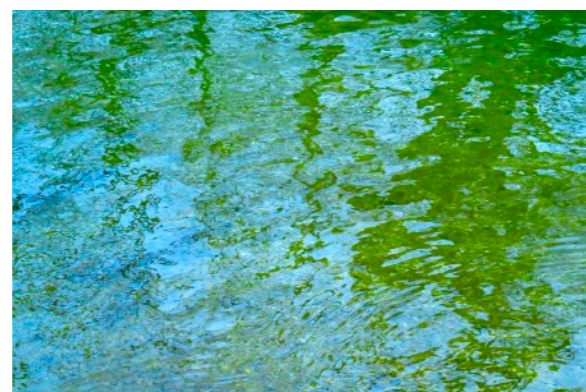
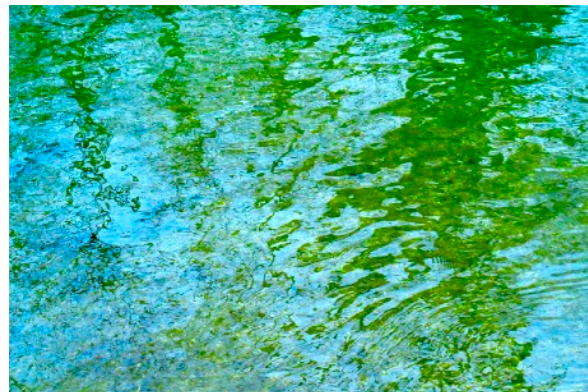
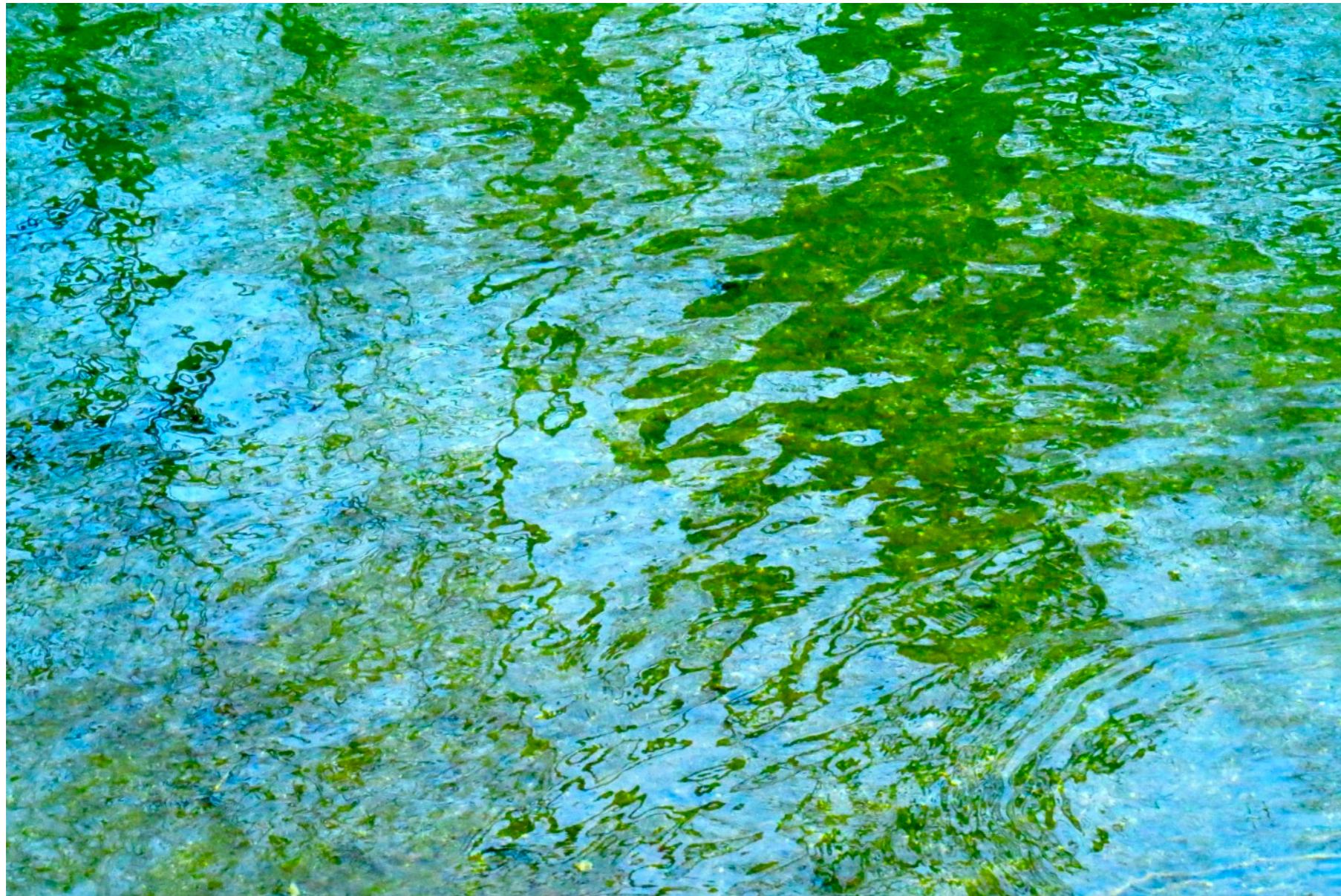
隠されていないのに
隠れているもの

黒のなかの黒
闇のなかの闇
私のなかの私

見たくないから
見えないのか
見たくても
見えないのか

見えないもの
隠れているものは
ときに
不意に訪れたかのように
私を驚かせる





※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

私は
という
私とは
だれだろう

私は
というとき
私は
すでに
私を語る私になっている

私は
ということができず
私はといわなくても
そこに私はいて
語る私を見ている

ものが語る
という
ものとは
いったい
なんだろう

ものが
語るときにも
ものを語る
ものに語らされる
私がいるのではないか

神託を伝える巫女のごとく
我をなくして
語るものもあるだろうが
そこに巫女はいる

巫女は
じぶんを見ないがゆえに
神託を伝えるのだろうか

私がだれであるか
わからないとき
どこか偽物の巫女のようにではないか

私が語っているときも
だれが語っているのか
わかりはしないのだから



地が
地になるためには
天から
分かれなければならなかった

けれど地は
いつまでも
地だけではいけない

地が天と
いつか違いを越えて
たがいの新たな姿で
むすばれますように

生が
生になるためには
死から
分かれなければならなかった

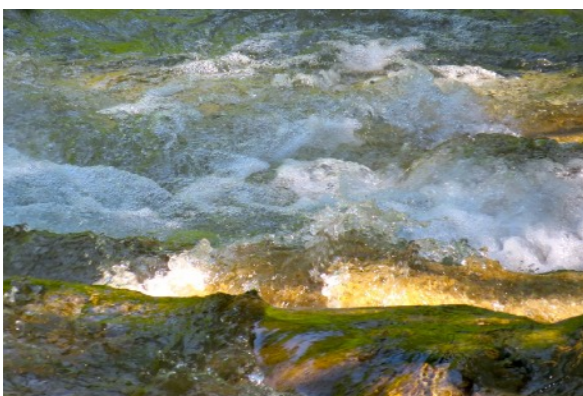
けれど生は
いつまでも
生だけではいけない

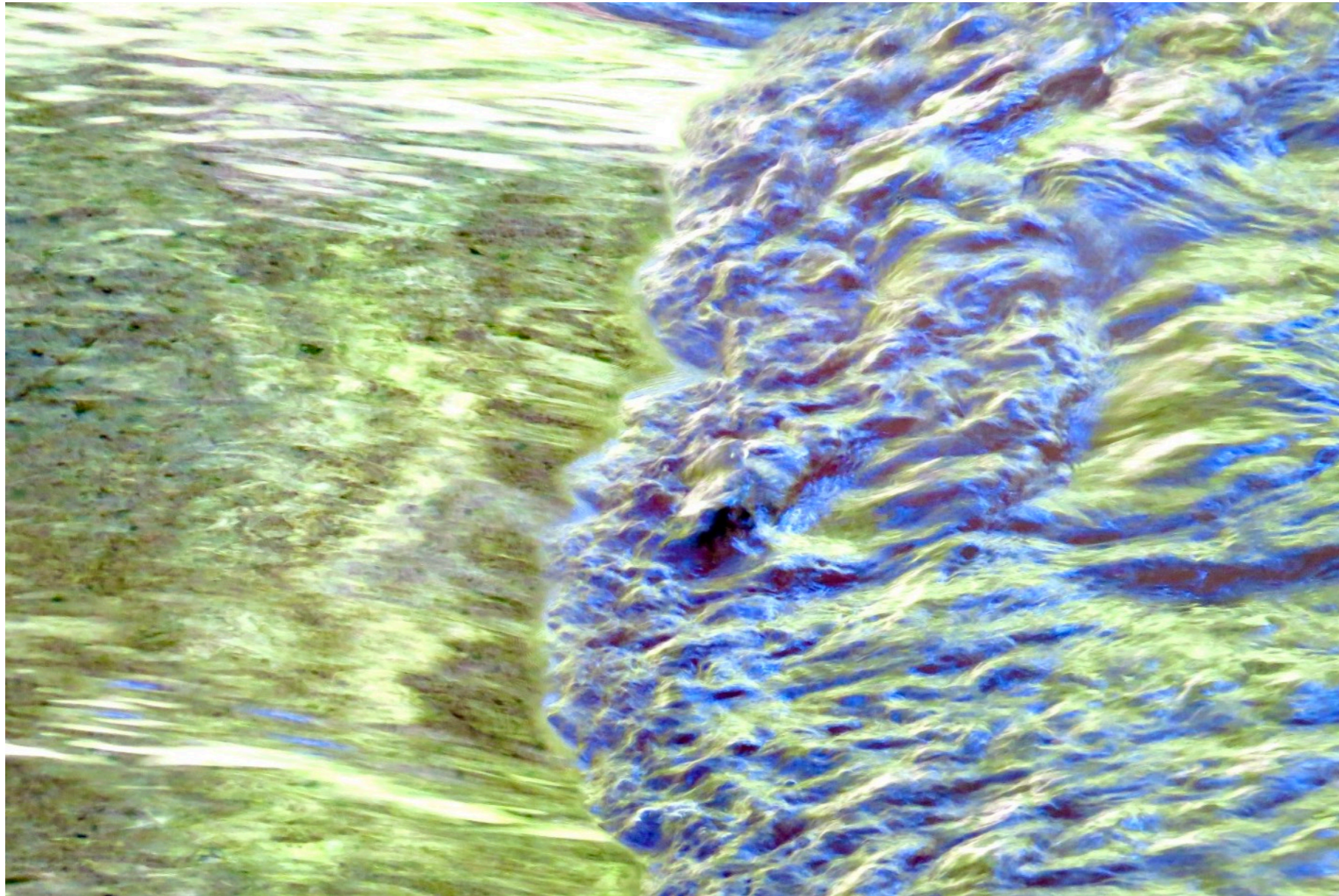
生と死が
いつか違いを越えて
たがいの新たな姿で
むすばれますように

我が
我になるためには
汝から
分かれなければならなかった

けれど我は
いつまでも
我だけではいけない

我と汝が
いつか違いを越えて
たがいの新たな姿で
むすばれますように





好きと
嫌いが
せめぎあう

なぜ好きなのか
わからなくなり
なぜ嫌いなのか
わからなくなる

わかると
わからないが
せめぎあう

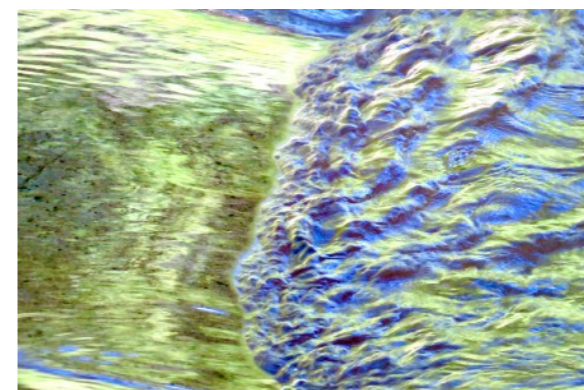
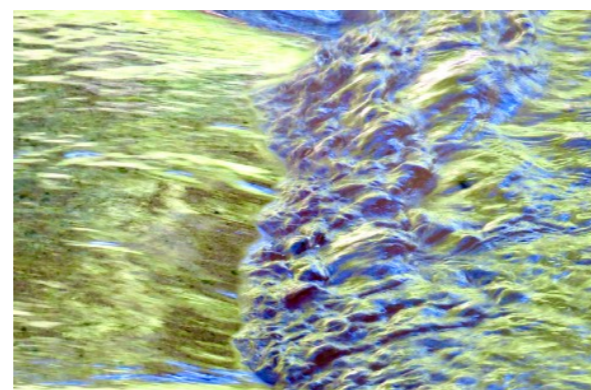
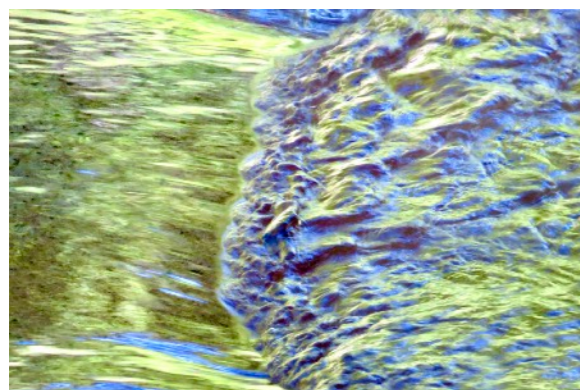
なにがわかるのか
わからなくなり
なにがわからないのか
わからなくなる

過去と
未来が
せめぎあう

過去が今をつくり
今が未来をつくるのに
今は過去へと向かい
未来は今を不安にさせる

自由と
執着が
せめぎあう

自由を求める執着が
自由を自由でないものにし
執着の果てにこそ
はじめて自由が見えたりもする





流れているのは
時間だろうか
それとも
私だろうか

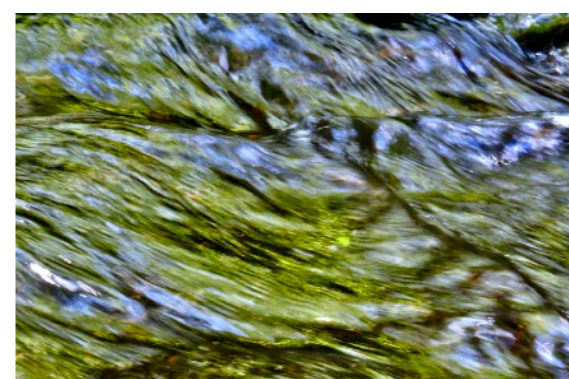
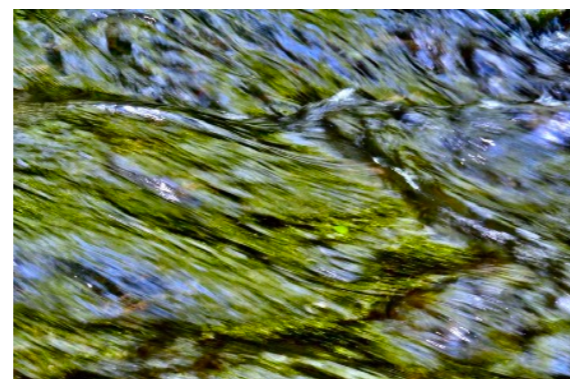
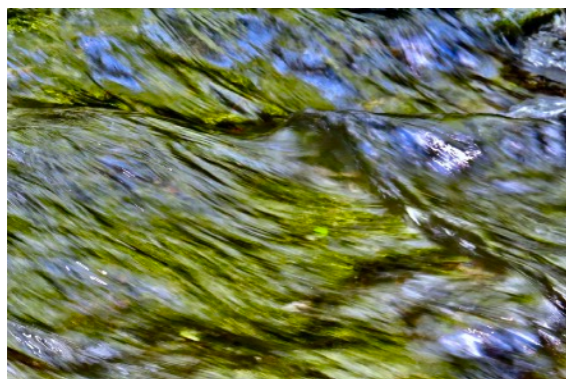
水は
天より降り
集まり河となり
海へと向かい
やがてまた天に昇る

時間は
天に昇らないだろうか
私は
天に昇らないだろうか

それとも
流れない
時間はあるだろうか
流れない
私はあるだろうか

流れないとき
時間はどこにあるだろうか
私はどこにいるだろうか

そのとき
流れているのは
いったい何だろうか





なんのために競うのか
わからなくなるとき
世界は変わる

その世界で
なにをしようか

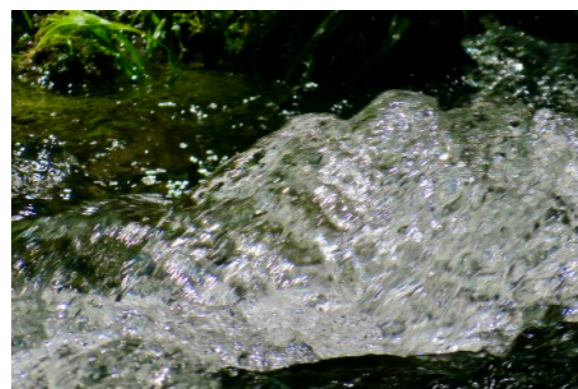
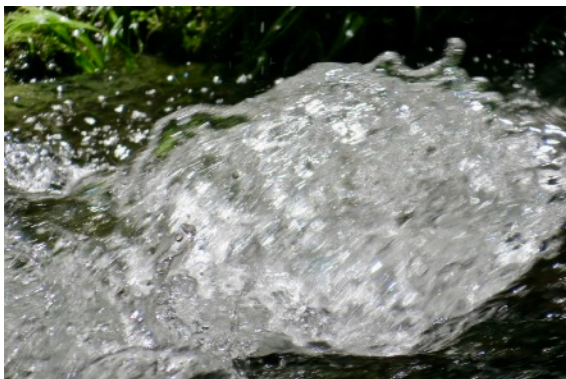
まずは深呼吸

勝つことが
目的ではなくなるとき
世界は変わる

その世界で
なにをして遊ぼうか

くらべなくとも
じぶんであることができるとき
世界は変わる

その世界には
これまで出会えなかった
ほんとうの他者がいるだろう





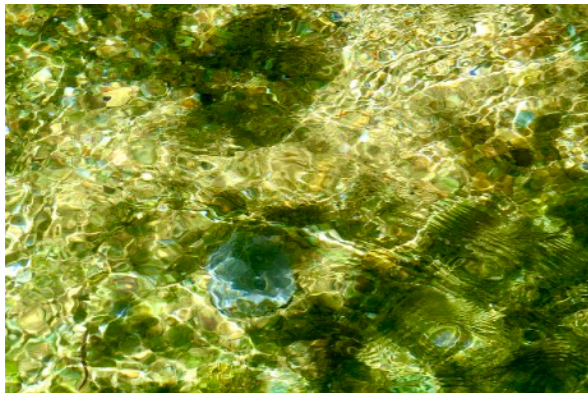
仏に逢うては仏を殺せ
仏を信じぬのではない
仏を祀らぬためだ
仏は常にあらたに現成している

信じるならば
疑うことを失ってはならない
絶えず疑い得るからこそ
信は常にあらたに訪れる

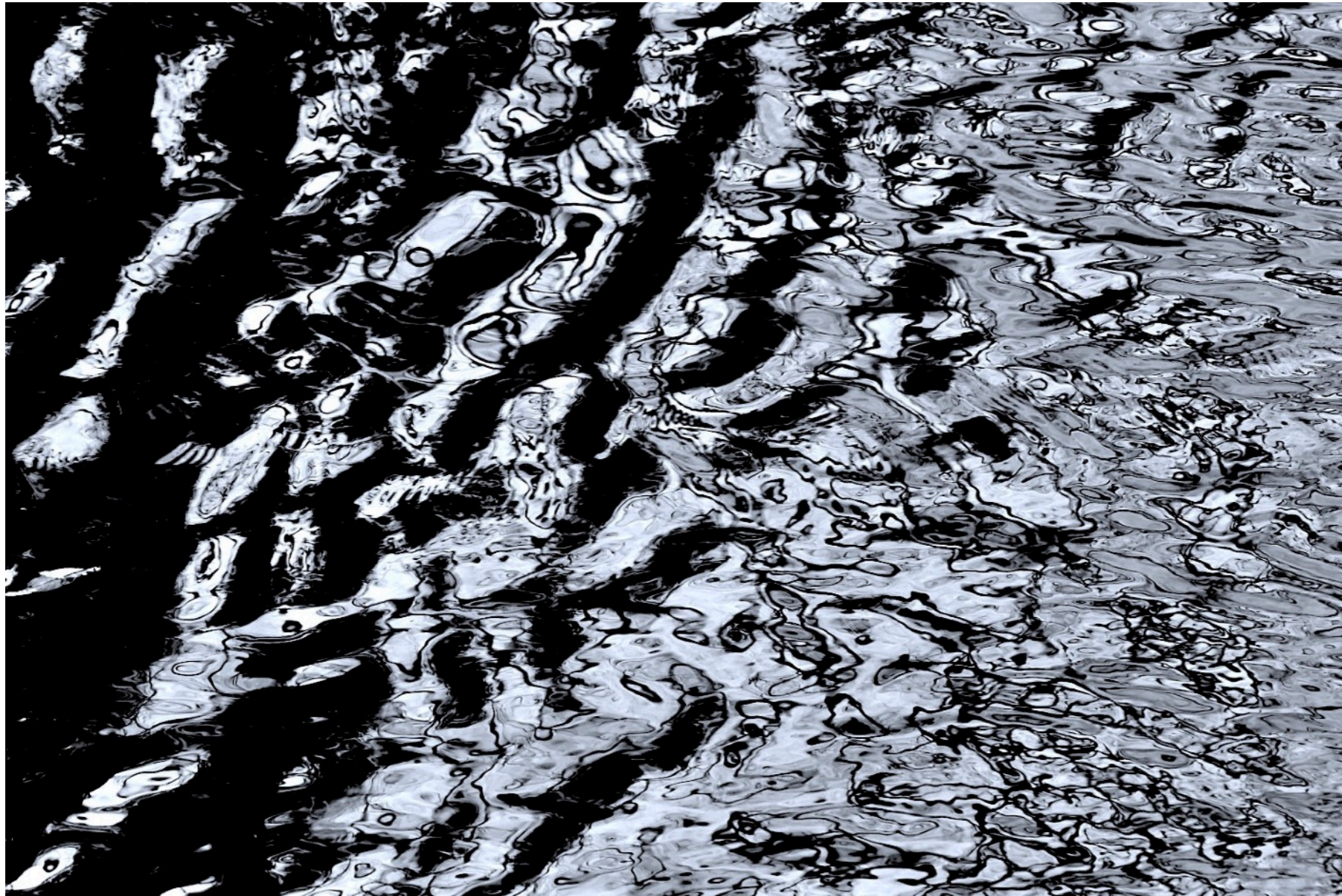
素直であることは
従うことではない
目を逸らさぬからこそ
素の姿を見すえることができる

道を歩むことは
道を逸れぬことではない
昨日の道は今日の道ではない
道はつねにつくられている

私に逢うては私を殺せ
私を信じぬのではない
私を祀らぬためだ
私は常にあらたに現成している



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて



どこにいるのか
わからなくなるとき

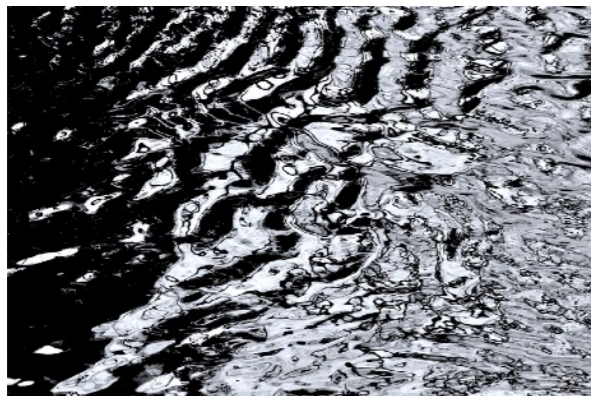
わたしのなかの地図は
投げ所をなくして
さまよいはじめる

こことは
いったいどこなのか
どこにいるといえるのか
ここはいつも
地図をなくした迷路になる

いまがいつなのか
わからなくなるとき

わたしのなかの時間は
投げ所をなくして
さまよいはじめる

いまとは
いったいいつなのか
いまはいつといえるのか
いまはいつも
時間をなくした迷路になる



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて



悪を知らなければ
誘惑されても
悪に気づけない

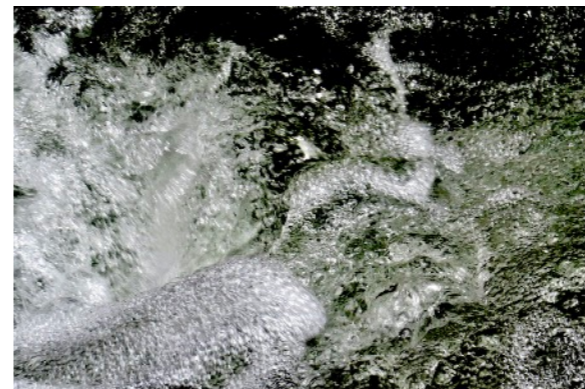
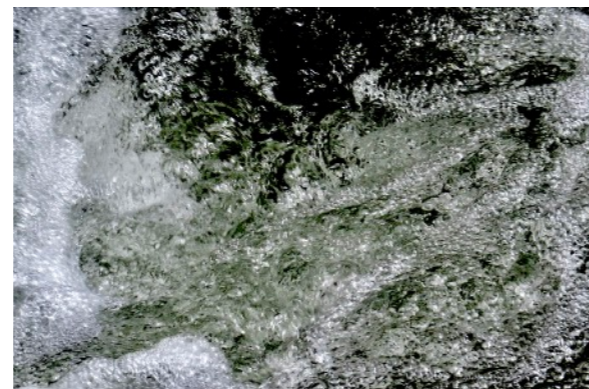
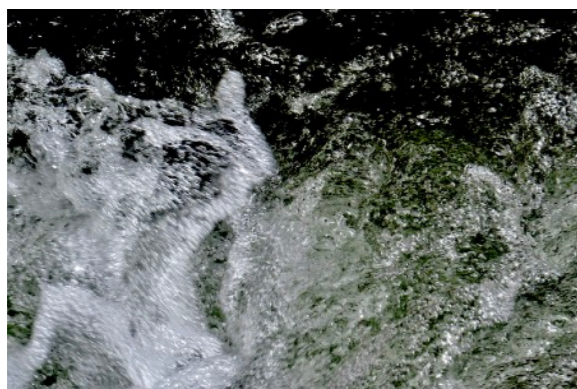
汝自身を知ることは
じぶんのなかの悪を
知ることでもある

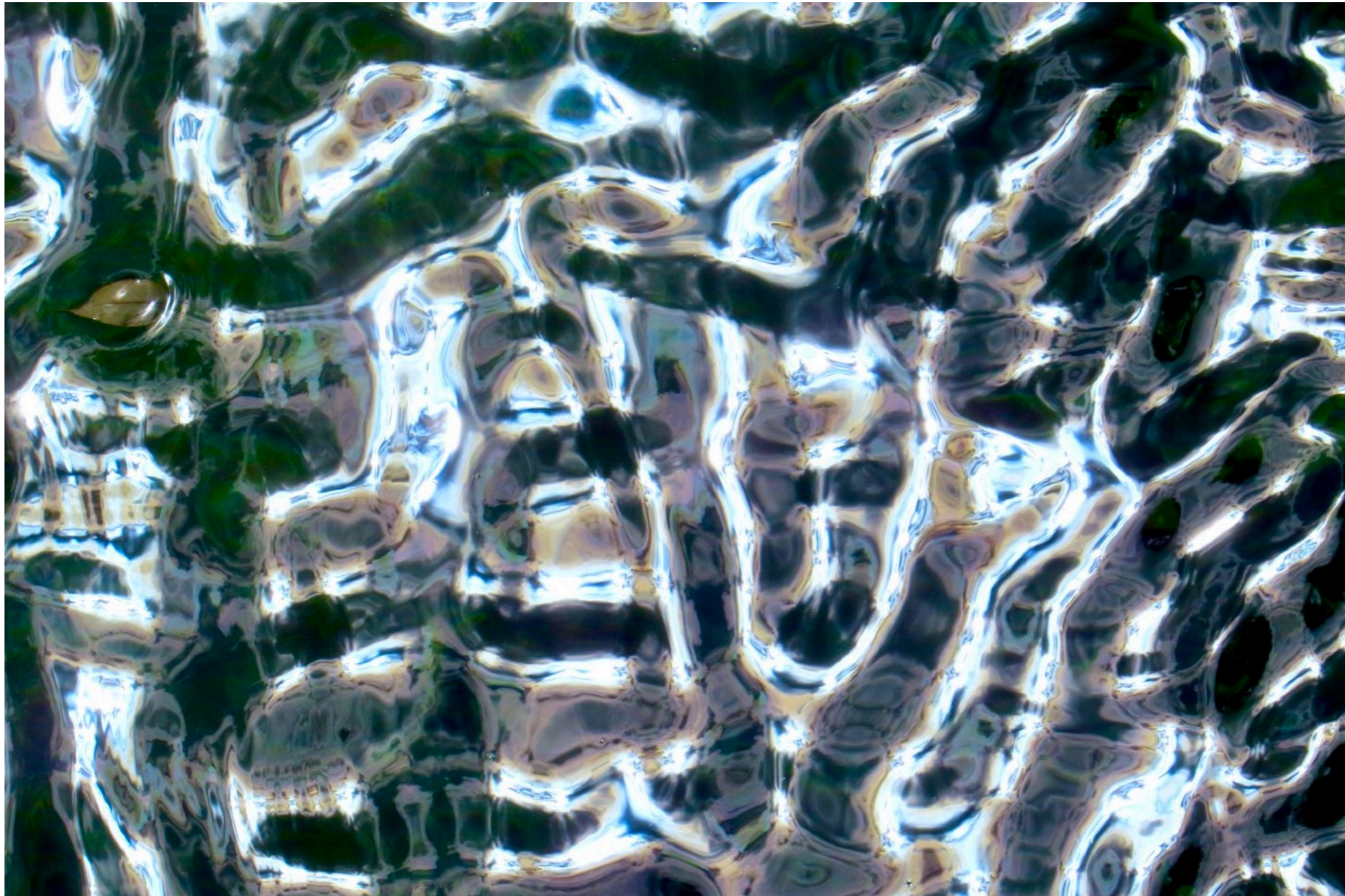
じぶんの悪を見ないでいると
気づかないうちに
じぶんが悪と化してしまう

現代人には
悪にもなれる可能性が必要だ
悪にもなれる力は
悪を避ける力ともなるからだ

悪は霊的進化の関係性のもとにある
霊的になりすぎても
霊的なものを否定し地上的になりすぎても
悪はそこに降臨する

悪に気づき
悪の力とともにありながら
悪の力を変容させる力が得られますように





意味に縛られ
身動きがとれなくなるときは
無意味を召喚する

意味は
どこからやってきて
どこへ行こうとしているのだろう

言葉にとらわれ
抜け出せなくなるときは
無意味な言葉で遊ぶ

言葉は
どこからやってきて
どこへ行こうとしているのだろう

私であることに倦んで
疲れてしまうときは
私でないペルソナを演じる

私は
どこからやってきて
どこへ行こうとしているのだろう

